

# 明るく・楽しく・元気よく

石川県立小松商業高等学校校長 前川 惣春

## 1. はじめに

本校は昭和63年度より、「一人ひとりの生徒の個性・能力を十分に伸ばす教育」を目指して学科の改編を行い、商業科に情報処理科を新設して、すべての生徒に基礎・基本をしっかりと身につけさせ、より専門性の深化に向け指導してきた。

現在は、さらに教育課程の改訂を行い、より一層の学力向上を図り、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成に努めている。

特に、平成15年度から三年間、文部科学省より「学力向上フロンティアハイスクール」事業の研究指定を受け、将来の生き方と適切な進路選択の決定のためのガイダンス機能の充実や、落ち着きのある教育環境の整備を図るなど、各種の取り組みを実施している。その中で、社会情勢の変化や地域社会の要請を踏まえ、商業教育のあるべき姿は何かを考え、学習内容の充実を図るとともに、「学力向上フロンティアハイスクール」の取り組みの一つである地域活性化プロジェクト「小商フェスティバル」等の活動を通して、失敗をも糧として主体的に将来を切り開き、社会に貢献できる人材の育成を目指しているところである。

## 2. 本校の現状

### ①学力向上フロンティアハイスクール

学力向上においては、「学力向上フロンティアハイスクール」の指定を受け、数学・英語・簿記・情報処理の科目において習熟度別指導を導入してきた。基礎基本の習得と、より高度な資格取得を目指して、「わかる授業」の研究やコミュニケーション能力、問題解決能力の育成を目的に地域に密着した活動を推進している。また、落ち着きのある教育環境整備の一環として導入した「朝の十分間読書」によって、図書の出数が昨年のお十倍になるなど、読書に対する意識も高まり、生活の落ち着きと各教科の基礎づくりとなっている。

### ②資格取得

資格取得においては、二年生の段階で、全国商業高等学校協会主催の各種検定試験1級に取り組み、平成16年度卒業生については77名が三種目以上の1級を取得し、その中で1名が、平成11年度以来となる全八種目合格を達成した。

また、上級職業資格の取得としては、経済産業省の基本情報技術者試験及び初級システムアドミニストラータ試験において21名が合格し、日本商工会議所主催の簿記検定1級にも1名の生徒が合格を果たしている。

#### 高度な資格試験の取得状況

##### 日本商工会議所主催簿記検定1級

年度(卒業年次)	合格者数
平成3年度	1名
平成5年度	1名
平成6年度	1名
平成7年度	6名
平成11年度	1名
平成16年度	1名

##### 経済産業省情報処理技術者試験

年度(卒業年次)	基本情報	初級シアド
平成12年度	10名	6名
平成13年度	4名	3名
平成14年度	6名	6名
平成15年度	11名	17名
平成16年度	4名	11名
平成17年度 (現3年生)	8名	13名
平成18年度 (現2年生)	3名	—

全商検定三種目以上取得者数

年度（卒業年次）	取得者数	全国順位
平成 12 年度	69 名	1 位
平成 13 年度	65 名	3 位
平成 14 年度	48 名	15 位
平成 15 年度	85 名	4 位
平成 16 年度	77 名	-

### ③部活動の活性化

部活動においては、三年間全員加入制を採り、学校の活性化及び人づくりに大きな役割を果たしている。近年では、カヌー部の個人全国優勝をはじめ、陸上部、弓道部の個人インターハイ出場、ソフトテニス部の県大会優勝、バスケットボール部、ハンドボール部の県大会準優勝、野球部の秋季北信越大会出場等の成績をあげ、特に運動部は、県高校総体女子総合で準優勝に輝いている。また、文化部においても、情報処理部（プログラム競技）、コンピュータ会計部（簿記コンクール）、ワープロ部（ワープロ競技）、珠算部（珠算競技）が全国大会へ出場するなど、生徒は課外活動においても自らの目標を持って、心身を鍛え、日々努力している。

### ④社会性の育成

挨拶マナーにおいては、その意義を充分理解できるように指導に努め、毎朝の登校指導による生徒への声掛けや「遅刻者ゼロ 100 日運動」の取り組みなどを通じて、基本的な生活習慣や社会性を身につけさせている。

### ⑤進路指導

進路指導については、昨年度卒業生 154 名のうち、78 名が就職希望、76 名が進学希望であった。就職においては、企業からの評価も高く、12 月末で就職希望者の全員が内定し、進学でも、四年制大学希望者が 19 名と増加したが、指定校入試による大学の増加等もあり、2 月末で全員決定した。また、今年度は、「キャリアガイダンス」を二年生にも導入し、より一層進路に対する意識を高める指導に力を入れている。

### ⑥地域連携

地域との連携では、10 月に「小商フェスティバ

ル」を地元商店街と共同開催し、地元の活性化を図るとともに、生徒の自主性やコミュニケーション能力の育成に向け成果を上げている。

学びの場を「学校」から「商店街」とし、学校では学ぶことができない様々な体験が可能である。失敗することも成功することも経験であり、今後ともこの活動を通じて様々な能力の育成に努めたいと考えている。

## 3. 学力向上フロンティアハイスクール事業 (平成 15 年度～ 17 年度)

### (1) 取組内容

①上級資格取得
②「朝の十分間読書」
③「遅刻者ゼロ 100 日運動」
④地域連携プロジェクト 「小商フェスティバル」
⑤オープンスクール 24
⑥シラバスの作成
⑦キャリアガイダンス

### (2) 研究内容

#### ①上級資格取得（スペシャリストの育成）

将来の IT スペシャリスト（システムエンジニア）の登竜門である経済産業省主催の情報処理技術者試験（国家試験）の取得にあたり、従来は一年から二年間をかけて指導してきたが、内容を精選し、半年間という短期間で取得させる試みを行った。

また、税理士の登竜門である日商簿記検定 1 級についても、従来の部活動と専門学校との連携を取り、試験対策講座を行い対応した。

上級資格取得に向けては、教員の研修会も兼ねており、試験に臨む生徒とともに教員も指導力の向上を図るため積極的に参加し、将来のスペシャリスト育成に向けて習熟度別指導を行い、高度な資格取得に挑戦した。

その結果、情報分野では、情報処理技術者試験に、また、会計分野では日本商工会議所主催簿記検定 1 級に合格する生徒を輩出できた。

平成 15 年度卒業生では、全国商業高等学校協会が主催する検定試験において、三種目以上（三冠以上）1 級取得者数は 85 名となり、本校では過去最高数に達した。本校のように、一学年が 4 クラス規模の学校としては、過半数の生徒が三種目以上の 1

級を取得したことは特筆すべき成果である。

## ②「朝の十分間読書」(心の教育)

メディアと娯楽の多様化を主な要因とする若者の活字離れが進んでいることから、生徒に本を手にする機会を設け、本との出会いを提供する時間を与えた。この取り組みは、年間を通じて実施した。また、司書を中心とした読書指導の充実に加え、「朝読ヒットチャート」と銘打って、人気図書ランキング(ベストテン)を掲示し、読書意欲の喚起を行った。

図書館利用状況

	15年度	16年度
総貸出数延べ数(冊)	786	5,665
総入館者数延べ数(人)	2,104	20,702
開館日数(日)	204	190
一日平均貸出数(冊)	3.8	30
一日平均入館者数(人)	10	109

朝の十分間読書の継続により、読書に親しむ生徒が増えるとともに、図書館を利用する生徒も大幅に増加した。この取り組みを通して、「自習時間や朝の始まりに落ち着きがみられるようになった」「家庭でも本のお話をするようになった」など具体的な効果が指摘されている。今後も心の教育、学力・集中力の向上等、朝読書に期待するとともに、今年度より全校一斉放送による朗読の日も設定した。

## ③「遅刻者ゼロ100日運動」(生活習慣の確立)

年間通じての目標「遅刻者ゼロ100日運動」を行っている。また、「遅刻者ゼロ100日運動」と題した大型掲示板を設置し、遅刻ゼロの日が現在何日であるか、一目でわかるようにするなどして、全校生徒に呼びかけている。

平成16年度(年間出校日数192日)は、88日まで達成することができた。この取り組みを通じて、「時間を守ることの大切さを理解することができた」「規則正しい生活習慣により、日頃の学習に集中できるようになった」など、一見数値では表現されにくい、広い意味で学力向上につながる効果があったと考えている。

## ④地域連携プロジェクト「小商フェスティバル」 (起業家精神・問題解決能力の育成)

地域活性化の一環として、本校初の校外型イベント

を開催した。地元商店街の店主と提携して、生徒が新たな企画を提案し、販売活動を行った。その他、吹奏楽部の演奏や保育園児・小学生との合奏、生徒が一般市民にパソコンの指導を行う「高校生によるパソコン教室」などを実施し、地域に活気をもたらした。

また、小松商業高校オリジナル商品「義経と弁慶なめてみまっし」(おみくじ“勸進帳”入りのキャンディー：おみくじの内容は地元の小松弁で考案)を開発、販売した。生徒達が知恵をしぼったアイデア商品が、来客者に好評を得て、ほとんどの商品が完売となった。中には、生徒達のアイデア商品が店の新商品となるものもあり、地域の活性化に一役買ったのではないかと考える。この地域活性化の取り組みを通して、行動力や企画力、問題解決能力が養われたと考えている。

## ⑤「オープンスクール24」(学習支援体制の確立)

来年度からの実施にあたり、情報提供する内容について検討を行い、マニュアルを作成した。登録の申



オリジナル商品

義経と弁慶「なめてみまっし」



「小商フェスティバル」

吹奏楽部と保育園児との合奏

し込みをした生徒および保護者に対してマニュアルを配布することになっている。

インターネットを利用し、生徒への学習支援を行

うとともに、生徒及び保護者に対して、ダイレクトに情報を提供する。平成16年度はシステムの構想を計画し、運用面での問題点を洗い出し、情報の提供内容とその方法について検討を行った。平成17年度は、一部の生徒を対象に試行中である。

#### ⑥「シラバス」の作成

平成15年度より学年進行でシラバスの作成を行い、入学式やキャリアガイダンス、LTなどで説明を行い、有効活用している。生徒が授業内容や学習進度について確認できる「生徒用シラバス」の他、「教師用シラバス」の作成も行った。

シラバスの章末には、年間検定試験日一覧や三年間の系統だった学習内容を提示し、自らが学習目標を設定しやすいよう配慮した。その結果、授業の中で取り組む検定試験だけではなく、漢字検定や実用英語検定など、様々な資格試験に積極的にチャレンジする生徒が増加した。

#### ⑦「キャリアガイダンス」(総合的な学習の時間)

従来の教師主導の「進路指導」から生徒が自ら学ぶ「進路学習」への転換を図り、自身の在り方・生き方を視野に入れた望ましい勤労観・職業観の育成を目指して取り組んだ。

外部講師による講話や三年生の先輩達による就職や進学についての合格体験談(「先輩達に学ぶ」)などに加え、「進路ノート」の活用や日本語能力検定の受検など、生涯教育をも視野に入れた授業を展開することで、三年間を見据えた上での体系的な進路学習を行い、一年の段階から将来を考える機会を与えることができた。これは生徒自身が目的・目標を持って学校生活を送るための一助にもなったと思われる。

### 4. 今後に向けた取り組み

本校は、商業の専門高校として、上級資格の取得・部活動の奨励・挨拶マナーの励行を三本柱とし、社会に役立つ人づくりを目指している。

この三本柱に加え、21世紀に輝く商業高校を目指して、新たな四本目の柱として、「地域との連携(起業家精神の育成)」を挙げている。この地域連携

を四本目の柱とした理由は以下の通りである。

- (1) 生徒の企画力や行動力を試す場として、校内よりもより緊張感と責任感を持って取り組み、社会性の育成に効果的である。
- (2) 生徒の企画や実践が、地域の活性化につながり、地域に貢献できる可能性がある。
- (3) ほとんどの生徒が地元の企業に就職する本校生徒にとって、地域を知り、地域を学習の場とすることは、進路学習の面からも大きなメリットがある。
- (4) 本校の教育活動を地域へPRするよい機会となる。

本校は、商業の専門高校として地域に貢献できる人材の育成を目指して、地域とのつながりを密にしてきた。県内に先駆けてインターンシップを導入するなど、地域社会に目を向けた教育活動を展開し、昨年度はさらに発展させるため、全校生徒が地元商店街に出向いて、販売活動やイベントを行う「小商フェスティバル」を実施した。

今年度は、昨年度の取り組みをより発展させるために、お客様を楽しませるための、明るく元気のあふイベントを数多く盛り込む予定である。また、「ふるさと“小松”検定」の作成と実施を通して、ふるさとの魅力を高校生視点で調査し、再発見、再認識し、地域社会あるいは全国に向けて情報発信できればと考えている。

このように、大きな未知の企画にチャレンジすることは、生徒の起業家精神の育成につながるとともに、また、地域社会の中での全校生徒の在り方・生き方を考えさせるきっかけにもなると判断でき、今後も一層取り組みの充実を図って行きたい。